

果樹の主要な病害虫の発生状況（9月）

1 リンゴ

(1) リンゴ褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は、県北では平年より高く、県中・県南では平年並に高く、会津では平年よりやや低い状況でした（図1）。本病原菌は罹病落葉で越冬するため、発生園では落葉を適切に処分し、菌密度低下を図りましょう。

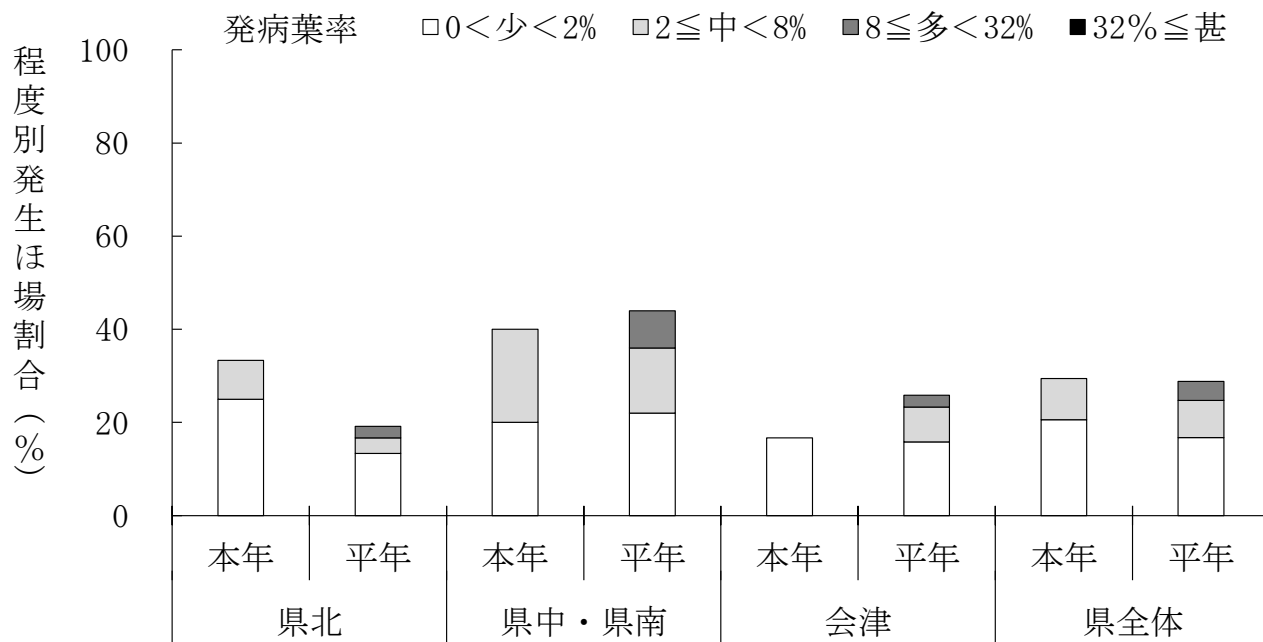


図1 リンゴ褐斑病の新梢葉での発生状況（9月中旬）

(2) リンゴ炭疽病

果実での発生ほ場割合は、平年並の状況でしたが、一部の園では中発生ほ場が確認されました（図2）。

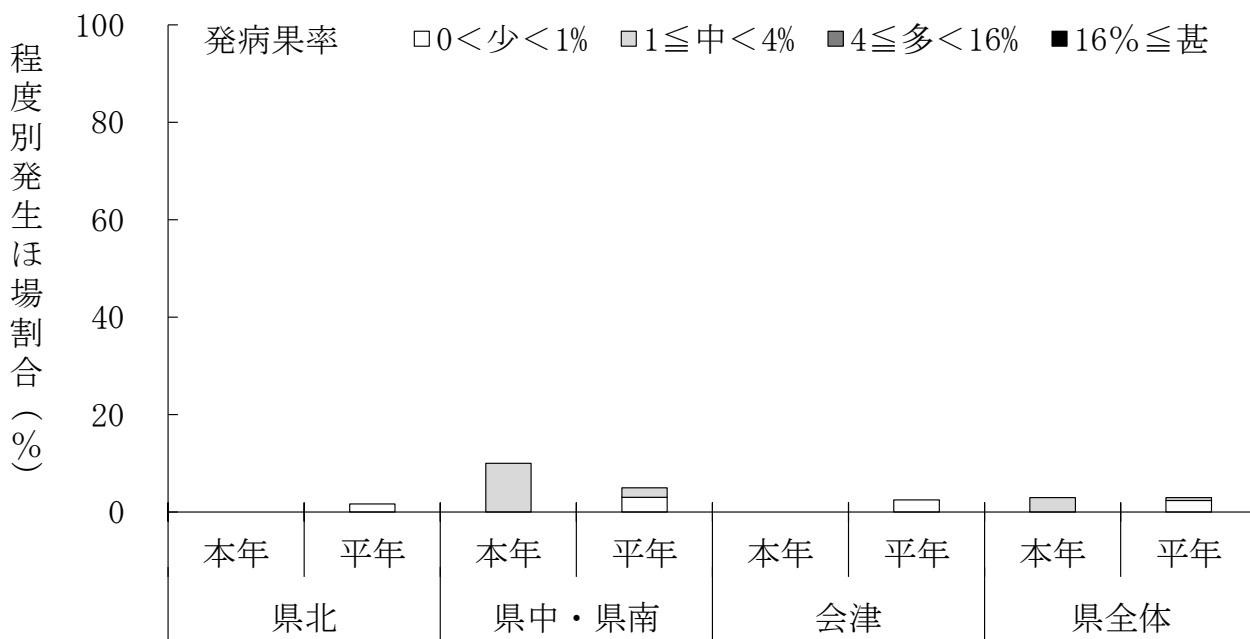


図3 リンゴ炭疽病の果実での発生状況（9月中旬）

(3) リンゴ輪紋病

果実での発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図3）。

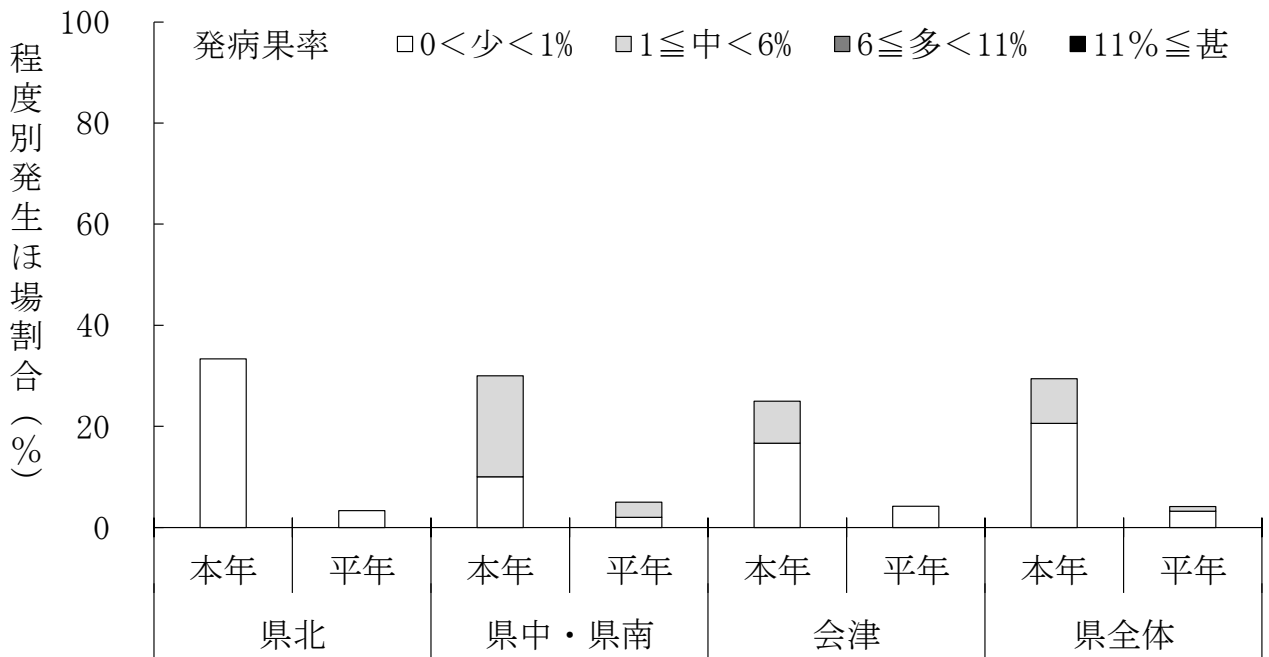


図3 リンゴ輪紋病の果実での発生状況 (9月中旬)

(4) 果樹カメムシ類

県北・会津地方の発生ほ場割合は平年並でしたが、県中・県南地方は、平年より発生が多い状況でした（図4）。なお、9月中旬～10月上旬にかけて、県北・県中・会津地方のフェロモントラップにツヤアオカメムシ（図5）の誘殺が確認されています。特に、伊達地方の一部のリンゴ園では多数の飛来が確認されていますので、今後の発生に注意してください。

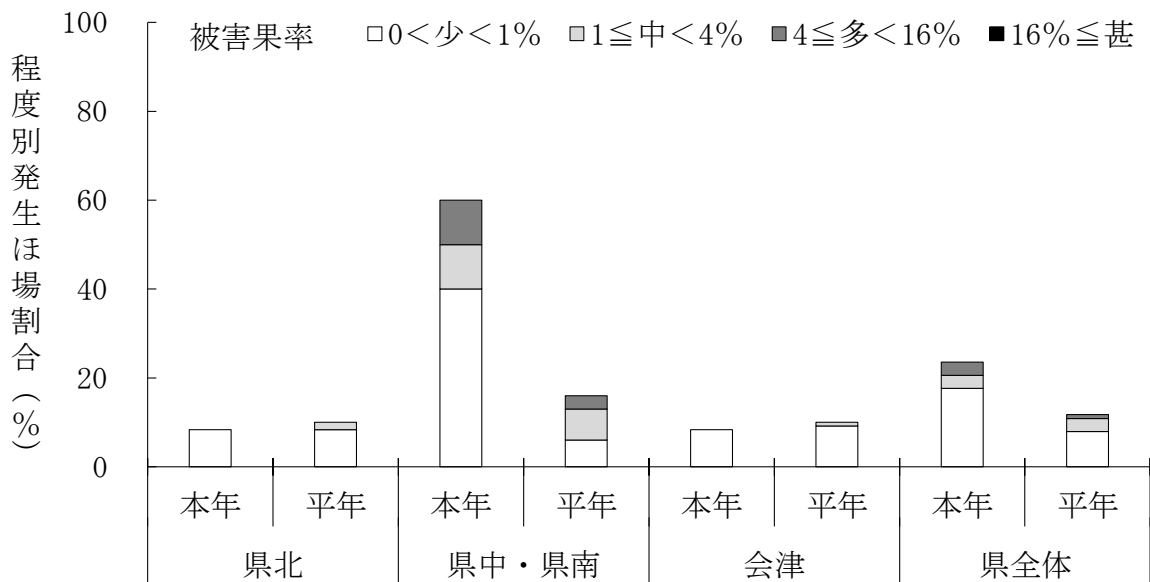


図4 リンゴでの果樹カメムシ類のリンゴ果実での発生状況 (9月中旬)



図5 ツヤアオカメムシ成虫（右側写真提供：果樹研究所）

(5) ハスモンヨトウ

病害虫防除所の巡回調査において、中通り地方ではハスモンヨトウによる葉の食害が確認されています（図6）。また、調査地点外では、果実被害が確認されています。また、モモ、ナシ、ブドウにおいても食害が確認されています。



図6 ハスモンヨトウによる葉の食害

2 モモ

(1) モモせん孔細菌病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年より低い状況でしたが、一部の園では中発生のお場が確認されています（図7）。降雨前の秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図りましょう（令和6年9月13日付け定期予報参照）。

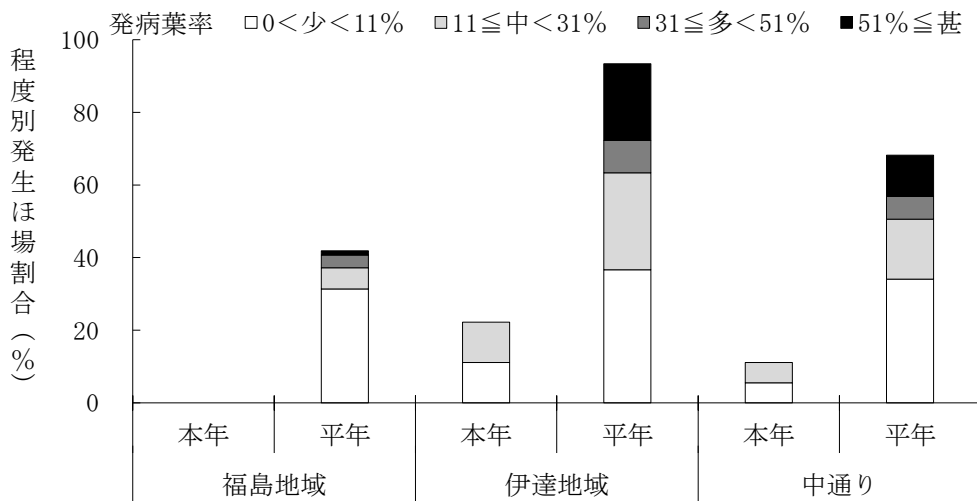


図7 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況 (9月下旬)

(2) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図8）。越冬量については、本年12月に越冬量調査を行います。

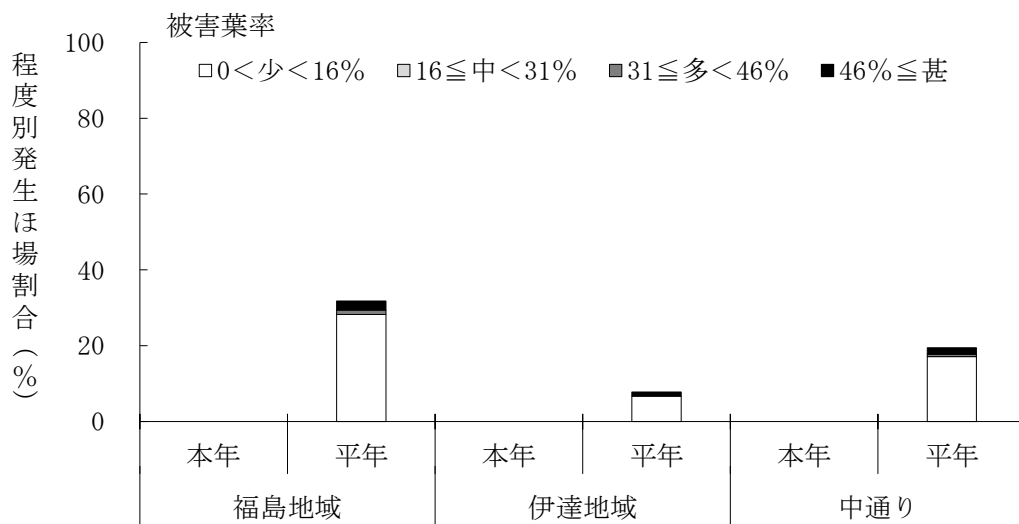


図8 モモハモグリガの新梢葉での発生状況 (9月上旬)

(3) ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイの新梢での発生ほ場割合は平年より高い状況でした（図9）。

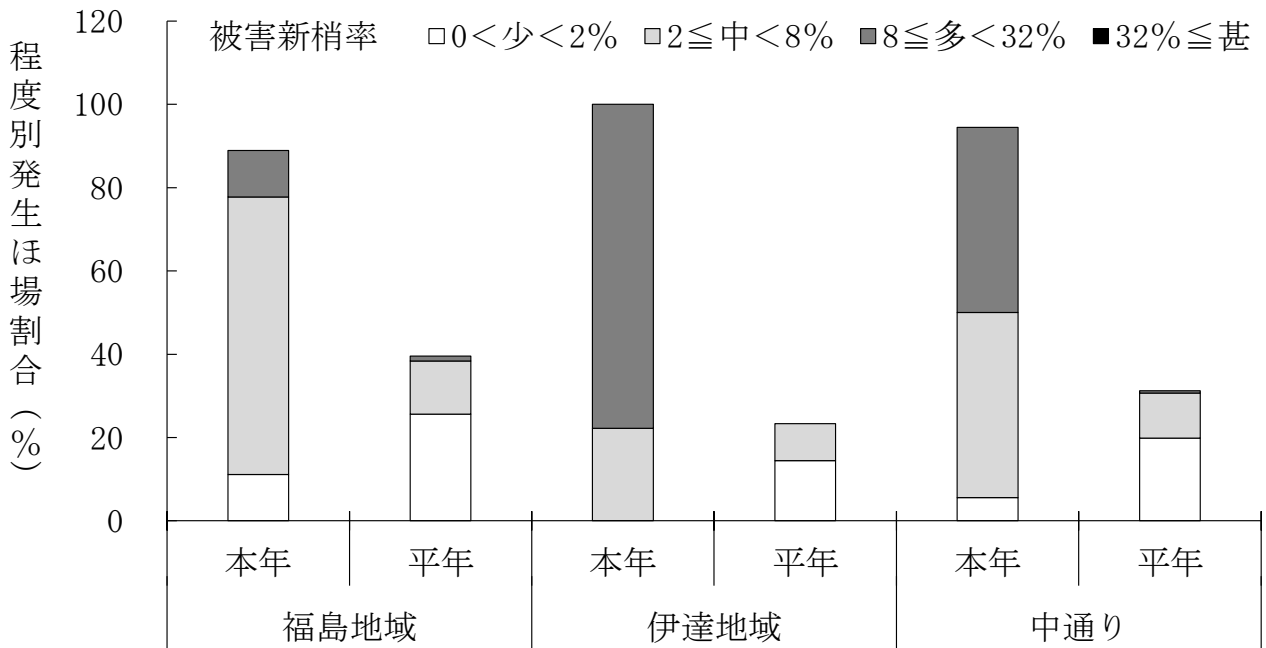


図9 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況（9月上旬）

3 ナシ

(1) ナシ黒星病

発生ほ場割合は、新梢葉、果実ともに平年並の状況でした（図10、11）。

りん片生組織の露出が多くなる10月上旬～11月上旬頃に秋期防除を行い、越冬菌密度の低下を図りましょう。

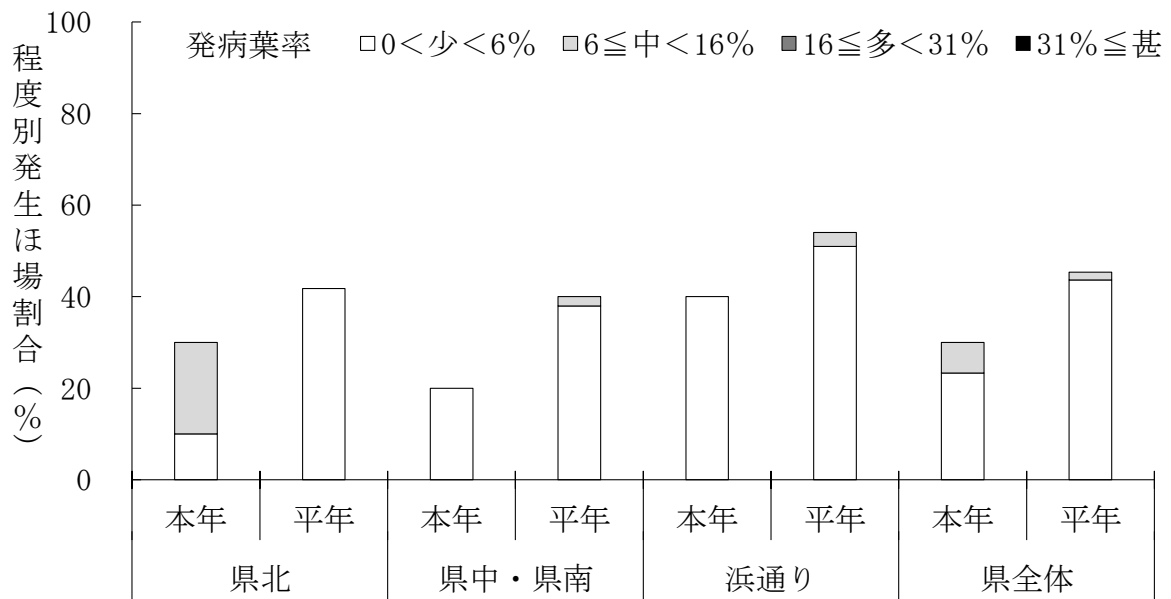


図10 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況（9月上旬、幸水）

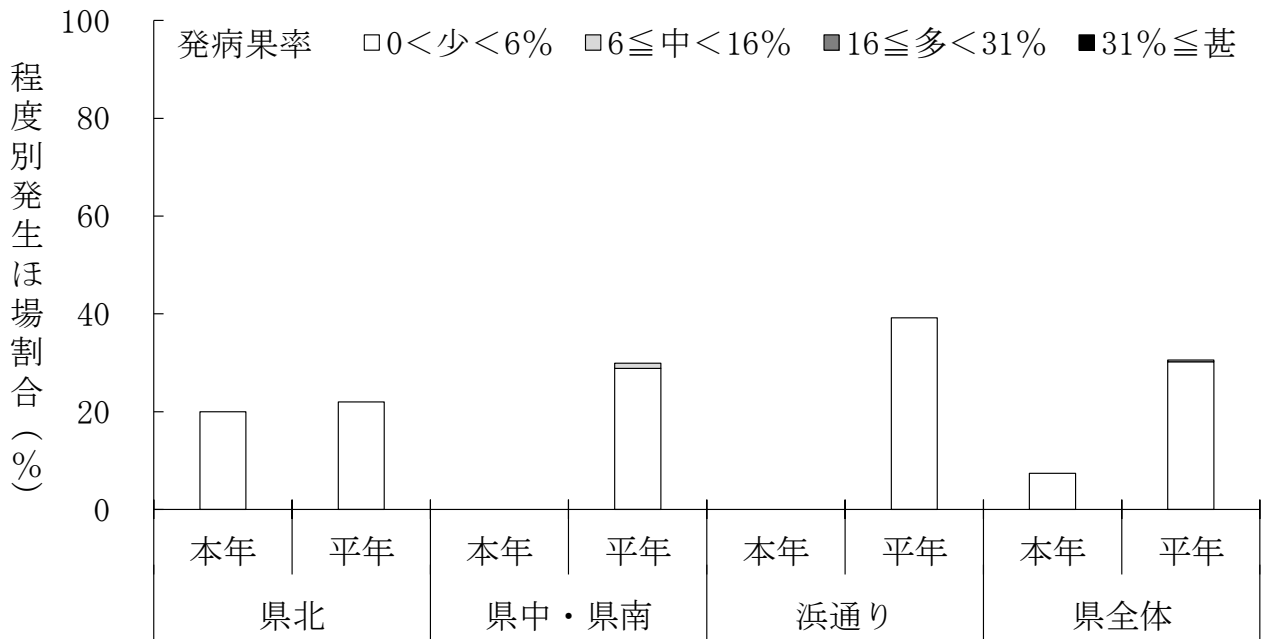


図 11 ナシ黒星病の果実での発生状況 (9月上旬、豊水)

(3) シンクイムシ類

ナシヒメシンクイの果実での発生ほ場割合は、平年より高い状況でした (図 12)。

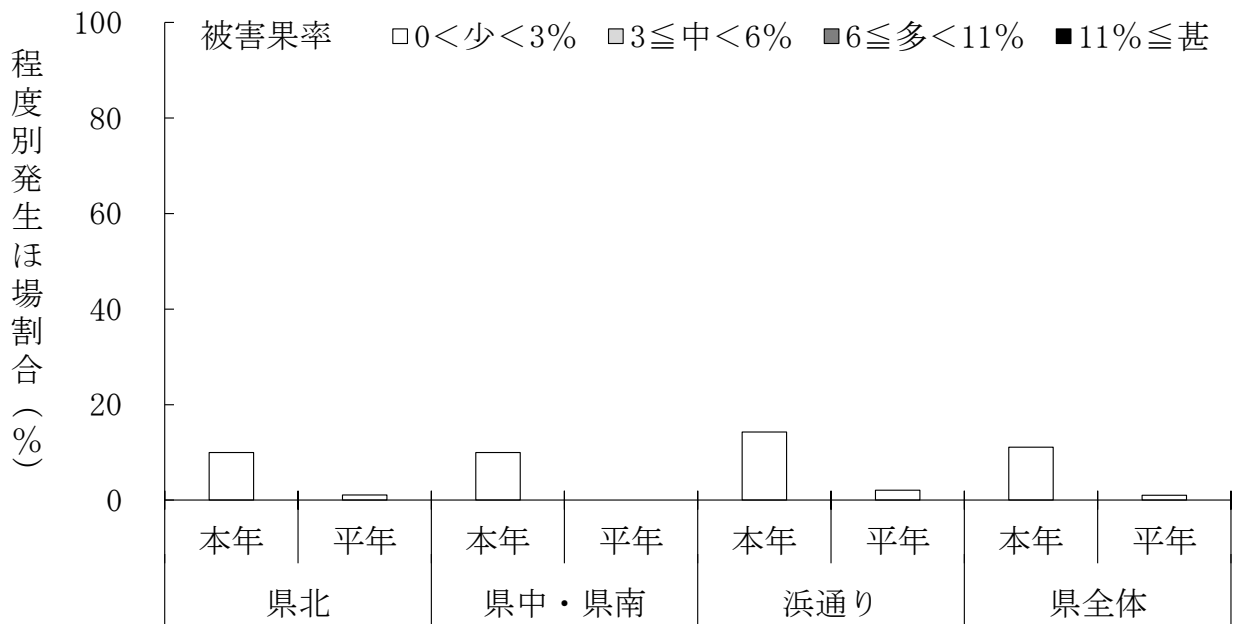


図 12 ナシヒメシンクイによる果実の被害状況 (9月上旬、豊水)